

# 穂学



令和4年度

広州日本人学校 学校便り

[No.5]

令和4年6月17日(金)

発行責任者 校長 加藤康徳

「本日(6/13)、児童生徒数が300名を越えました。」

今週の月曜日に4名の児童生徒が本校に編入学しました。これにより本校の児童生徒数が299名から303名となり、一つの区切りと言える「300」という数字を越えました。子どもが増えるということは本当に嬉しいことです。約3年前には約450名の児童生徒が本校に在籍していましたが、コロナの関係で帰国してしまい児童生徒数が激減してしまいました。

それから約2年、本日念願の300名をようやく越えることができました。

本校の校舎は500人規模を想定して作られた校舎なのでまだまだ余裕はありますが、それでも許容範囲の約6割の児童生徒数をもって教育活動ができることにこの校舎もきっと喜んでいことでしょう。(※もちろん声に出すことはありませんが・・・)

今後は「400名越え」も想定して準備を進めていきます。その日が来ることを願っています。

2003年から2006年にかけて児童生徒数が3倍に増えたのは、日本の自動車メーカー各社の進出があったからだそうです。自動車本体の規模も大きいですが、それに伴い数多くの自動車部品企業も広州に進出しました。そのことが児童生徒数増加の最大の要因だそうです。(学校関係者の話)



<前任の喜屋武校長先生の短冊>

「新型コロナウイルス感染に教育活動を展開しています。」

## <児童生徒数の推移>

西暦	児童生徒数
↓	↓
(補習授業校として開校)	
<u>1982年</u>	<u>3名</u>
(日本人学校として認可)	
1995年	18名
<u>1996年</u>	<u>38名</u>
1999年	75名
2001年	91名
<u>2003年</u>	<u>108名</u>
<u>2005年</u>	<u>236名</u>
<u>2006年</u>	<u>317名</u>
2009年	396名
<u>2011年</u>	<u>424名</u>
2013年	421名
2015年	392名
2017年	402名
2019年	453名
2021年	257名
<b>2022年(6/13)</b>	<b>303名</b>

花園酒店の一室を借りて、土日だけの授業補習校として開校しました。(講師は1名)

1996年に花園酒店から中信ビルへ学校が移転しました。(小学部36名 中学部2名)

2003年に児童生徒数が100名を越え、現在の校舎に移転しました。

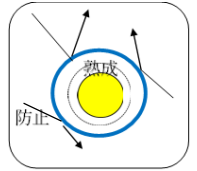
2005年に児童生徒数が200名を越えました。

2006年に児童生徒数が300名を越えました。

2011年に児童生徒数が400名を越えました。

のリスクを考えながら、積極的

4月当初は広州市内の学校が一斉休校となり、適切な教育活動が実施できない状況にありました。しかし、それ以後は全て予定された教育活動を展開することができております。コロナ禍の中、昨年より「教育のラッピング状態」ながらも、リスクのデットラインを確認し、教育活動を推進してきました。この経験を生かし今年度はさらに市行政との連携の強化や保護者の皆様のご協力を得ることで、ある程度のリスクをコントロールして教育活動を行うことができるようになってきました。



広州日本人学校では昨年度より学校経営のスローガンを「つながりを未来に実感させる広州日本人学校の創造」と設定し、それぞれつながりのある教育活動を実践しています。保護者の皆様におかれましては、子ども達の「安全・安心」な教育の推進のために引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

＜学校経営のスローガン＞

「つながり」を「未来に実感」させる  
広州日本人学校の創造

＜大切にしている5つのつながり＞

- ①先生とのつながり
- ②授業とのつながり
- ③友だちとのつながり
- ④保護者・日本人社会とのつながり
- ⑤中国とのつながり



＜小学部：東風東路小学との交流＞



＜英語・中国語の授業＞



＜プール学習＞



＜中学部：華聯大学との交流＞



＜読み聞かせボランティア＞



＜中学部：部活動＞

＜小学部：クラブ活動＞

○本校への編入学をお考えの皆様へ大切なお知らせです。

本校への編入をお考えの方は、日本から中国への渡航や中国国内の転居の前に必ず「入学事前確認書」を本校に送って頂くことになっております。詳細につきましては本校のホームページをご覧ください。※編入学にはいくつかの条件が必要となります。